

地域資源を活用した新たな自律型都市を考える ～麻機遊水地の可能性と課題を例に～

現在、静岡市では「第3次静岡市総合計画」の策定を進めています。今回は、静岡市長（田辺信宏）が、総合計画での今後のまちづくりの基本的な考え方をお話ししながら、市内に点在する多様な地域資源や環境資源を活用した、新しい自律型創造都市についてみなさんと考えます。

特に、今後大きく整備が進む「麻機遊水地」を例に、英国の湿原や釧路湿原での事例を学びながら、治水機能を確保し、かつ地域資源をどのように活用し、将来につなげていくか、そのためには、持続可能な管理をどうしたらよいか、その手法も含め語り合います。



＜賤機山から麻機遊水地を望む＞



| | | |
|-----|--|---|
| 日時 | 平成26年 2月22日（土） | 12:30 開場 |
| 参加者 | どなたでも 90名 先着順。事前申込が必要です。 | 13:00 開会 |
| 申込先 | 静岡市コールセンター TEL 054-200-4894 (午前8時～午後9時・無休) 1月16日(木)より受付開始 | 13:10 基調講演 ①：渡辺豊博氏 都留文科大学教授 NPO 法人グラウンドワーク三島専務理事 「英国ロンドンの湿原活用とグラウンドワーク三島によるまちづくり」 |
| 参加費 | 無料 | 14:10 話題提供：阪野真人氏 認定 NPO 法人霧多布湿原ナショナルトラスト 霧多布湿原センター次長 「北海道霧多布湿原ナショナルトラストによる地域資源活用の取り組み」 |
| 会場 | アイセル 21 集会室 31 (3階) 静岡市葵区東深草町 3-18 | 14:30 質疑応答 |
| | | 15:10 基調講演 ②：静岡市長（田辺信宏） 「第3次静岡市総合計画について」 |
| | ※公共交通機関をご利用ください。 | 15:30 座談会 「静岡市の地域資源・環境資源を活用した自律型創造的都市像とは」 |
| | | 16:30 閉会（16:35 閉会予定） |

【基調講演】

| | | | |
|--|--|--|---|
| | <p>田辺 信宏 (たなべ のぶひろ) 静岡市長</p> <p>旧静岡市の市議会議員(平成3年4月～平成7年3月)、静岡県議会議員(平成7年4月～平成15年9月)を経て、平成23年4月より現職。</p> | | <p>渡辺 豊博 (わたなべ とよひろ) 都留文科大学教授 NPO 法人グラウンドワーク三島専務理事 静岡県職員として NPO 推進室長などを歴任した後、平成20年より都留文科大学教授。市民活動論や富士山学等を開講している。9つの NPO 法人の事務局長職を歴任。</p> |
|--|--|--|---|

麻機遊水地

巴川流域にある麻機遊水地(第1~5工区総面積約206ha)は、静岡市の中心市街地から北に約5kmに位置している。1974年の七夕豪雨で、巴川流域において甚大な水害が発生したことを契機に、巴川は「総合治水対策特定河川」に指定された。麻機遊水地も、巴川河川施設整備事業の一環として、治水機能と公園機能を有する多目的遊水地として整備が進められている。なお、麻機遊水地の第1、第3、第4の各工区は、自然再生対象区域とし、2004年に「巴川流域麻機遊水地自然再生協議会」が設置されている。



(第4工区)

ロンドン湿地センター (The London Wetland Centre)

1946年に設立された「The Wildfowl and Wetlands Trust」は、湿地の保全を使命とする環境団体で、湿地の買い取り運動などを行っている。現在の会員数は約20万人。英国内で9ヶ所の湿地センター(総面積約2600ha)を運営している。この内、ロンドン湿地センターは最も新しく、総面積は約42ha。ビクトリア時代に使用されたものの、その後未利用となっていた大小の貯水池をつなぐ形で形成されている。英国で最初の都市型湿地プロジェクトであり、世界的にも大都市圏内の人工湿地としては最大級といわれている。約220種の野鳥が生息している。



(全体図)

NPO 法人グラウンドワーク三島

1992年、住民・企業・行政のパートナーシップを仲介することを通して、「水の都・三島」の原風景を再生し、子どもたちに受け継いでいくことを目指す環境団体として設立された。ドブ川化した源兵衛川の再生を発端に、水中花・三島梅花藻の復活、歴史的井戸やお祭りの復活、学校ビオトープの建設、松毛川千年の森づくりなど60以上の環境再生プロジェクトを実践している。また近年は、三島街中カフェの経営、環境教育事業、観光振興事業、農業生産販売事業、そして被災地支援などにも乗り出し、NPOビジネスのモデルを構築している。合言葉は「右手にスコップ、左手に缶ビール」。



(松毛川)

認定NPO 法人霧多布湿原ナショナルトラスト

霧多布湿原は、海岸線から広がる約3,100haの湿原で、国内でも有数の広さを誇る。夏に見せる花の景観は、国内でも最大級といわれており、1993年にはラムサール条約にも登録された。1986年、この美しい湿原を後世に残すことを目的に、地元の有志を发起人として「霧多布湿原ファンクラブ」が設立され、その活動は、認定NPO法人に引き継がれている。市民が主体となって、霧多布湿原を愛する人々の輪を広げ、ナショナルトラスト運動を展開することで、湿原民有地の買い取りと保全を図り、自然と共生する暮らしや町づくりを進めている。



(花の湿原)